

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0690100771		
法人名	社会福祉法人 山形市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム 鈴川		
所在地	山形市大野目一丁目4番62号		
自己評価作成日	令和 5年 9月 25日	開設年月日	平成 30年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 5年 10月 19日	評価結果決定日	令和 5年 11月 2日

(ユニット名 桜桃ユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム 鈴川は開設7年目を迎えました。併設している地域活動センターは地域の方に開放し、高齢者～子供まで年齢層広くご利用をいただいております。
 利用者の皆さまが日常生活の中で調理や片付け、掃除等の役割を持ち、出来る力が発揮できるように取り組んでいる活動型の施設です。利用者及び職員一人ひとりの力(個性・能力・経験・役割・専門性)を活かす事や、結びつきを大切にし、地域の中で利用者一人ひとりが尊厳され、生きがいを持って生活を続けられるように働きかけをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をユニット前に掲示し念頭に置くも、全てを意識しての実現は難しい。今後も理念の共有と実践を周知し、意識して行っていきたい。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響が続き、地域の方との関わりが中々出来ぬ状況にあったが、新型コロナウイルスが5類に移行となり、新しい生活様式にて秋季の避難訓練は合同の開催を実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、利用者の生活状況などを伝えている。町内会長などからは地区の状況などを聞いている。運営推進会議で意見を真摯に受け止めユニット会議で報告し職員間での共有を図っている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の生活状況などを伝えている。町内会長などからは地区の状況などを聞いている。運営推進会議で意見を真摯に受け止めユニット会議で報告し職員間での共有を図っている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険関連や指導監査課等に相談確認を受けている。また、運営推進会議報告等で、定期的に出向いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関を掛けないようにしている。また、玄関が死角となることから、鈴を付け、玄関が開いた際に鈴がなる様に工夫している。又、不適切なケアにならない為に2ヶ月に1度、ユニット会議時スピーチロックやアンガーマネジメント・尊厳を守るケア等身体拘束に繋がる事項を内部研修として続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>不適切なケアにならない為に(身体拘束適正化)として、内部研修にて虐待の定義等の読み合わせを実施する他、接遇について話し合っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>現在、成年後見人制度を利用している方が1名おり、分からない事などは、担当者会議に伺うようにしている。その他、ユニットスタッフが1名、研修を受講しているため、今後は伝達研修等で、職員研鑽に努めたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、重要事項説明書・契約書などを読み説明を行っている。疑問があれば質問を受け、説明している。</p>		
10	(3)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・担当者会議等で意見・要望を聞くようにしている。意見・要望が出た際はユニット会議などを利用し職員間で話し合いを行っている。また、面会や電話等での伝達をケアに取り入れるよう努めている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議や普段の何気ない会話の中から職員の意見や提案を聞く様にし、意見や提案は上司に相談し出来るだけ反映されるように努めているがなかなか反映出来ていないところもある。</p>		
12	(4)	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務表は出来るだけ、職員の希望に沿い、作成するようにしている。職員の得意分野を活かし、係等を決めている。お互いに声掛けし楽しく働きたいと考えている。また、年休他、法人独自の特別休暇やリフレッシュ休暇を実施している。</p>		
13	(5)	<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人として、年間を通しコンプライアンスに関する研修を実施している。他、外部研修として職員の力量にあった研修を計画し、参加している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県認知症グループホーム協議会において、ZOOMでの交換実習に参加し、情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍ではあるが、入所前、ご家族様に当施設を見学して頂くようにしている。また、入所前に自宅や、利用施設などへこちらから趣き、本人や家族に不安や要望を伺うなど面談する事で、安心して入所出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時などに家族から話を聞き、現在家族が抱えている問題や不安を、少しでも解消して頂ける様な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に乗る上で、その人が求めているサービスが別のものであれば、紹介し繋げるよう支援している。(専門医の受診や、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設など)		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者と寄り添い、これまでの生活環境を理解するよう努めている。ご本人様の出来る事が維持出来るよう、また、利用者が互い助け合いながら「1日1日を楽しかった」「無事に過ごせた」と思える生活を心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調や精神面の変化など、面会時に話をする、月次報告書を活用し共に支えて行く関係を築くように努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院は入所前から通っていた所に来るだけ通って頂いたり、行きつけの美容室、お墓参り等個別的に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮しフロアでの座席を考えお茶の時間やレクリエーションを通して談笑の時間を設けている。作業の組み合わせや個人の分担も工夫し交流が図れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院などで退所した際は、入院先や入所先へ必要な情報の提供を行い、関係性を断ち切らない事を意識し、本人や家族に安心を与えるよう心がけて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心として、利用者の思いや暮らし方の希望・意向の把握に努めている。意思疎通困難な方は、家族より聞き取りを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との普段の何気ない会話より若い頃や現役時代の話を聞き取りしている。その他、暮らしの情報シート等も参考にしている。家族からは、面会時や3ヶ月に1度の担当者会議時に話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前情報やスタッフ同士の情報交換でその人らしい生活が出来る様、心掛けている。また、センター方式の(私の姿と気持ちシート)を作成しスタッフの共有支援を試みている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで出た意見や、本人・家族の要望を基に介護計画書を作成している。また、通院時にかかりつけ医とも話し合いを行っている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録に、一人一人の目標を記載しており、個別ケアの統一が図れるよう工夫している。また、自由記載欄には、ちょっとした変化・気づきでも記載するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当者会議を通して、今後についての要望・意見等を伺い、対応するよう努めている。瞬発的に生まれるニーズに関しては、柔軟に対応出来る様、ニーズの把握と同時に必要な資源の提示や問い合わせ等に応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も、コロナ禍での活動制限があり、地域の文化祭への参加、百歳体操への参加、ボランティアの受け入れは行っていない。地域資源の把握に関しては、運営推進会議時に圏域内の地域包括支援センターの職員・生活支援コーディネーターより情報収集させて頂いている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時報告書を作成し、施設での状況を医師に伝えている。職員による異常の早期発見・健康管理を得て安心して生活出来る様、支援している。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、医師と相談し服薬処方のみ頂き、通院回数を減らす状況もあった。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はケアワーカー兼看護師と、利用者の病状等について相談している。普段の状態において小さな変化でも対応できる様、こまめに状態報告・相談し情報共有している。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院をした際は、速やかに病院の相談員と連携を図り、主治医や病棟看護師と情報交換をし早期退院に向け話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に対する施設の方針を説明している。利用者の状態をみて、家族と話し合いをし重度化や終末期に対する意向を共有している。医療関係者にも問い合わせを行い、連携できる仕組みづくりに向け、思案中である。以前には、訪問診療を利用した経過があった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。AEDの使い方は職員内部研修で実施している。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春季・秋季の年2回防災訓練を実施している。春季は水害・火災の両方を想定し、秋季は地域合同での避難訓練を実施。災害が起きても利用者が避難出来る方法を身に付ける様努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬意を払いながら、言葉遣い・声掛けのタイミング・場所などに気を付け対応している。また、プライバシーの確保には十分気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来るような話し方や働きかけを行い、本人の希望にこたえられるよう支援している。意思表示が出来る方には、じっくりと話を聞き入れる・出来ない方は、行動の支援を図る様努めている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその起床時間・入浴日・食事の時間等の決まりはあるが、その日の体調に応じて、入浴日を変更したり、食事の時間をずらしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は出来るだけ本人に選んで頂いているが、季節に合った洋服や清潔感が得られるよう支援している。また、訪問美容室の来所や近隣の美容院へ出向き、定期的にはヘアカットやパーマ等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を毎日利用者と考えている。その時に利用者の好みを取り入れている。調理も利用者主体となって実施している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・形態は個人に合わせて提供。水分量が少なる方には10時/15時にポカリゼリーを提供している。その他、食事摂取量が著しく下がっている方へ対し、かかりつけ医と相談の上、エンシュアリキッドの摂取を促している。また、同法人の管理栄養士に食事内容を確認し、アドバイスをもらっている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄・歯磨きなど個人に合わせた口腔ケアを自分で出来る事をして頂いている。出来ない方は、職員が全介助を行っている。プライバシーに考慮し、居室の洗面台で実施している。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿便意が曖昧な方でも排泄リズムを掴み、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を試み促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの排泄チェックを行い、必要時はかかりつけ医に相談し、便秘薬を処方して頂いている。また、毎食のご飯に押し麦を入れる・きな粉ヨーグルト・きくらげ・さつま芋等の食物繊維を便秘症の方に摂取して頂いている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日・時間は決まっているが、その日の体調や予定に合わせて変更している。また、シャワー浴にしたり、個々の状態に応じた入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が、それぞれ休息や眠りたい時は、自由に休んでいる。夜間は安眠出来る環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の管理はスタッフが行っており、服薬内容については、各職員が理解している。状態が変化した時は、その都度かかりつけ医に報告し、変更等は特に注意を行い記録、申し送り時に共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・食事づくり・後片付けなど生活の中に役割が出来ている。認知症の進行が著しい方にも出来ることを継続して頂いている。本人が好き飲み物や飴等、既往症に制限がない方であれば自由に飲んで頂いている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、個人の買い物、その日の食材の買い物を一緒に出掛けての支援は中止している。ドライブや花見の外気浴、要望に応じて近隣の散歩を実施し気分転換を図っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的に当施設で管理している。本人の希望があれば家族の了承を得て少量の現金を預ける事も可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、こちらから入電している。遠方の知人や親族との手紙のやり取りや年賀状の投函などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリー仕様、窓は二重窓になっており外部の騒音が入り難い。フロア・浴室・トイレも毎日清掃し、清潔を保っている。また、季節の花や作品を飾る事で、季節感を感じて頂き、利用者が居心地良く過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで新聞を読んだり、和室で自由に寛いだり出来る。また、定期的にフロアの席の見直しをし、気の合った利用者同士で過ごせるようにしている。輪に入れない・関係性の増悪が認められる際は、職員が間に入り支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族の協力の下、今まで使用していた物を持参して頂いたり、家族写真を飾ったり、心地よく暮らせるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様、手すりの設置の他、居室入口にネームプレートの掲示・トイレの貼り紙・検討が付きにくい方へは、居室前にも案内紙等の添付にて、分かり易いように工夫している。		